

主題：嶋野タイ栄道

げんじょう 2011年7月19日午後5時38分

フラグラント アーブス著

時には、不道德な弟子達が師と性交渉を持つ事は事実であるが、チベットの仏教界に住む女性から聞いた所によれば、師が彼女等に語った事であるが、悟りを開くためには師と性交を行なう事が必要であると云い、さらに悪いことに、これは正真正銘の強姦であった。師は彼の持っている力により、通常、並の人の語る事の無い事を語り、この若い女性は、もし彼女が過去において特に両親により虐待を受けた経験がある場合、簡単に誤摩化されて性交渉に入っていく。

権力による起動力は場合によって非常に強大であると言う事は私も全く同感で、特に靈的師と弟子との間で、師が自分よりも遥かに若い、傷つきやすい弟子に対して強引に言い寄った場合、このような行動は正に一方的で殆ど強姦と同一視して良いと思います。私はこのような話を聞きたくはなかったのですが、更に悪いことには栄道老師を思い出させました。もしこの話が事実ならば、私は事実であると信じるのですが、このような経験による心の傷は多分生涯癒える事はないでしょう。栄道老師の弟子との性交渉の歴史はとうの昔に終わったものと私も他の人びとも信じて、彼を弁護して来ましたが、私が実際にそう信じたのか、それとも、私の心深くでそう望んだのかもしれない。私は一昨年前の六月まで彼の下で修行して来ましたが、彼の引き続く不法行為は見た事も、聞いた事も無く、やっと今私は彼がいかに秘密を続けることに巧みな男であるか分かりました。私は失望した、という言葉は余りに控えめ過ぎる表現なのですが、この失望は私の騙されやすい性格に起因しているのでしょう。

げんじょう

大梅山長法禅寺(長法寺)住職、シアトル アメリカ合衆国：精神治療学者、公認靈性指導者

<http://www.choboji.org>